

平成23年10月19日

大阪府知事 橋下 徹 様

自由民主党大阪府議会議員団

幹事長 花谷 充愉

政調会長 宗清 皇一

成人病センター問題に関する質問状

**前提事実**

(1)「第3回大手前・森之宮まちづくり協議会」の議事録によると、その12頁から13頁で、兒玉府立成人病センター副院長が以下のような発言をされている。

【12頁10行目～20行目】

「それからこれはがんの遺伝子治療ですよ。これはもう今やっています。要するにウイルスを用いるわけです。ウイルスを人間に入れると、これはウイルスに感染して死んでしまいますから、要するにそのウイルスが、がん細胞でしか発育できないように遺伝子の組みかえをやるわけですね。元の遺伝子を組みかえて、これは体の中に入れてもがん細胞にしか効きませんよ、がん細胞だけターゲットにします。特殊なマーカーで何回も見分けるんですけれども、それにベクターという運び屋をつけて血液に入れてやるわけです。そしたら、血液の中に入れてがんに行って、正常組織には入らないんだけど、がん細胞の中に入る。そこで増殖しよるんですよ。そうしたらパンクする、がん細胞が。それでがん細胞が自爆して死んでしまう。これが遺伝子治療の一つの方法です。」

【12頁25行目～13頁3行目】

「だからそういうなのを治す遺伝子治療というのを、こういういろんなプロジェクトからお金をいただきまして、共同研究という形で当センターで進めております。こういうなのを新病院でも展開していきたいということです。」(下線は引用者)

- (2) 他方、成人病センターでの研究報告集である「大阪府立成人病センター年報・平成21年度(2009.4～2010.3)76頁記載の研究「ウイルス工学を応用したがん細胞標的医療の開発」では、実験の前提として、「可能な限り均一なゲノムDNAをもつウイルスを大量に増幅する必要がある」とされており、少なくともこの実験においては大量のウイルスが増殖されていることが分かる。
- (3) そして、(1)記載のまちづくり協議会資料中で指摘されている「がんの遺伝子研究」と(2)の記載の研究は、同一のものであると考えられる。

### 質 問

1. 以上から、現在の成人病センターでは、がん治療研究のために、ウイルスを大量に増殖させ、最終的に人体に戻すことが可能になるような「遺伝子組み換え実験」が行われていると考えられる。しかし、ウイルスは大量に増殖されればされるほど外部に漏出する危険性がある上、遺伝子組み換えによっても全ウイルスについて人体に無害なウイルスが必ず作れるとは限らず、実験自体の危険性は否定できない。  
この実験は現在、成人病センター研究所内の、具体的にどの施設で行われているものか。
2. その施設は周辺住民への危険防止のために、どのような安全設備を備えているのか。
3. 住民の命と健康が守られるまちづくりの観点からすれば、遺伝子組み換え実験が行われていることや実験内容、その危険性の情報が住民に知らされるべきだと考えるがどうか。  
今後開示される予定はないのか。
4. 上記1～3を踏まえ、大手前に移転された場合は、どのような対応をされるのか。

以上の質問項目について、10月20日(木)午前中までの回答を求める。